



学校だより



令和4年10月31日
11月号
調布市立第一小学校
校長 川島 隆宏

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho/>

TEL 042(481)7636

自らを高めていこうとする気持ちを育てたい

校長 川島 隆宏

このところ秋晴れの気持ちがいい日が続いており、子供たちが校庭で元気に遊ぶ姿は見えて、とても気持ちのよいものです。2学期は体育館工事のため校庭が狭い中でも、子供たちはドッジボール、鬼ごっこ、一輪車、鉄棒……と様々な遊びを繰り返しています。

その中で、登り棒を利用して一輪車を毎日のように練習している子供たちがいます。1学期の頃は登り棒につかまっていなくてすぐに倒れていた子供が、10メートルくらいは余裕で進むことができるようになっていました。中には、友達と手をつないで2人で回転する技やピロティエーのところまで行けるようになった子供もいます。おそらく、ここに至るまで、何回も失敗したことでしょう。でも、「うまく乗れるようになりたい!」という気持ちが、数えきれない失敗を乗り越えさせ、今の姿を生んだものであると思います。「少しでも自らを高めた」と思うことは、とても価値のあることです。



失敗したら、その原因を考え、また、挑戦する。決して諦めず、前に進む。これは一輪車だけでなく、全てのことに通じます。ただ、人間は弱いもので、途中で諦めてしまったり、失敗したら恥ずかしいと思ったりして、後ろ向きになってしまうことがよくあります。私自身もこれまで何度もそのような経験をしてきました。

私が高校生の時、ある先生から「何事も上達したかったら、うまい人たちと練習しなさい!」と教えられたことがあります。これは、吉田兼好が書いた徒然草という本に出てくるお話です。話はこうです。「芸能を身につけようとする人は、『うまくないうちは、うかつに人に知られないようにしよう。内々でよく練習してうまくなってから人前に出たら、たいそう奥ゆかしいだろう』と常に言うようだが、このように言う人は、一芸も身に付くことはない。いまだ、全く不完全なころから、うまい人の中に交じって、けなされ笑われるにも恥じず、平然と押し通して稽古する人が、天性の才能は無くても、その道に停滞せず、いい加減にしないで年を送れば、才能があっても稽古をしない者よりは、最終的には名人の境地に到り、長所も伸び、人に認められて、ならびなき名を得ることである。」というものです。

最初から何でもうまくなれる人はいないものです。うまくなるために練習しているのだから、失敗して当たり前です。他人から下手だと言われようが、馬鹿にされようが、そんなことを気にせず、勉強でも、運動でも、習い事でも、自分を高めていこうとする気持ちを大切に努力を続けられる人になってほしいと思います。

休み時間に、何度失敗しても一輪車をひたすら練習している子供たちを見ると、とても嬉しくなり、「頑張れ!!」とエールを送りたくなります。



11月の生活目標 じょうぶな体になろう

気候の変化から体調を崩しやすい時期になってきました。風邪などに負けないじょうぶな体をつくっていききたいものです。自分の体について知り、じょうぶな体をつくるために必要な運動・栄養・生活習慣などについても考えさせていきたいと思っています。